

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 , 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム トトロの森	評価実施年月日	平成19年8月29日
評価実施構成員氏名	住友 幸子 米沼 美穂 水野 政二 佐藤 大輔 長野 美由喜 村越 秀子 清野 春恵 渡部 智絵		
記録者氏名	住友 幸子	記録年月日	平成19年9月10日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
○ 地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	・理念の中に作り上げられている。(地域社会との関わりを深め、いつでも立ち寄ってもらえる開放的なグループホームを目指します)	○	・地域に向けての広報誌発行を出している。 ・月行事の案内の発行、参加促しの回覧板を町内会にまわしている。 更に努力をする
○ 理念の共有と日々の取組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	・その人らしく毎日過ごせるよう取り組んでいる。	○	・毎日の見守りの中で報告、連絡、相談をさらに徹底する。
○ 家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	・家族や地域の人たちとの集まり場や、行事などに理念を伝え理解してもらえるよう伝えている。		・地域運営促進会議を実施している。
2. 地域との支えあい			
○ 隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	・あいさつをしたり声をかけたりして努めている。 ・気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気作りができてきている。(地域の小学生が遊びに来てくれる)	○	・これまでも実行してきたが顔見知りか否かに関わらず積極的なあいさつの徹底。 ・小学生の授業の来訪を受け入れている。 今後も継続していきたい。
○ 地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	・町内会のゴミ拾いや子供会の行事、お祭り等に参加して交流を深めている。 ・地域の神社のお祭りや行事には寄付を行い、積極的に参加している	○	・地域の神社のお祭り等、寄付を行っている。 ・区の催し物に参加している。(盆踊り、よさこい、運動会など)
○ 事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	・回覧板をまわしてホームの行事に参加してもらったりしている。 ・近所のお年寄りをホームにお誘いしている	○	・認知症の理解を深めて頂くために広報誌を発行している。定着していきたい。今後ホームを活用した交流の場を提供する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	・取り組んでいる。 管理者、職員間の会議にて評価の結果を元に改善に向けて話し合い、今後に生かすようにしている。	○	・避難経路の確保 ・危険物管理の徹底
8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・地域の人や家族等参加を促し、場を設けて取り組んでいる。	○	・会議の頻度を増やす
9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	・実習生の受け入れ、認知症サポーター養成講座の開催をして取り組んでいる。		
10	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	・職員等、研修を受けている。	○	・現在、活用するような利用者はいないが、更に取り組んでいきたい。
11	○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・ヒヤリハットを利用して皆でその都度話し合い、取り組んでいる。	○	・更に徹底したい。
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・管理者が家族と話し合いをもって行っている。退居が決まったら次のケアマネジャーも一緒に家族とのサービス担当者会議を開催している。		・入居の際、退去の際、スタッフに十分情報が伝わっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・いつでも対応できる体制を作るように努力している。	○	・利用者が不満や苦情を言いやすいような信頼関係を築くよう努力したい。
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	・月刊誌の発行と家族来訪時に随時、説明報告を行っている。 ・お小遣い預かりに関しては毎月お知らせをし、来訪時には確認をしてもらっている。	○	・今後も継続して取り組んでいきたい。
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・「ご意見用紙」を定期的に送っている。いつでも対応できる体制を作るように努力している。		
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・定例会議を行っている。問題意識を持っていつでも取り組み、反映させている。		
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	・ゆとりを持った人員配置に努めている		
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	・ユニット間の交流を多くしており、利用者は他ユニットのスタッフと馴染んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・実践者研修やスタッフ研修等、また色々な外部の研修を積極的に取り入れている。	○	・ホーム内での研修会の実施
20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・清田区内GHのスタッフ研修を行い、情報交換をしたり他のGH見学を行ったりしている。		
21	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	・定期的に職場を離れたスタッフ親睦会 ・コーチングなどの研修会への参加を勧めてくれたり話を聞いてくれたりしている。		
22	○ 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	・スタッフの努力を見て研修会への参加を勧めてくれている。 ・シフトの希望をとりストレス解消に対応をしている		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	・本人の思いを受け止める努力をし対応している。(帰宅願望がある方には一緒に歩く。) ・入居前にホームでの体験をしてもらっている		
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	・入居前から不安な事やホームでの暮らしの希望を聞いている。(ケアプランにつなげている。)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・変化に対して必要としているものを対応している。 (デイサービスの利用 利用可能なサービスの情報提供)		
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	・入居する前にホームに来訪する機会を作り、一緒にご飯を食べたり音楽療法の参加等をすすめ、馴染んでもらえるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	・スタッフ一人一人が利用者様に対し、学ぼうとする気持ちを持って接するようにしている。		
28	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	・家族の気持ちになるようにと努力している。 ・来訪時は日々の様子を伝え、電話やお便りなどでもこまめに様子を伝えるようにしている		
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	・家族に本人の細かな情報を伝えている。 普段何気なく書いた利用者のメモや便りを家族に送っている		
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・戦友が訪ねて来たり支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	・スタッフが一人ひとりを把握し利用者同士が上手く関わっていけるように介入し、橋渡しの役割をしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	・お便りを出したり、節目にはお花を贈っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・本人やその家族を通じ希望や意向を聞いてその都度検討し、ケアにつなげている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・本人やその家族と信頼関係を築きながら情報を得て把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	・利用者の日々の生活状況を情報共有しながら総合的に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	・利用者の日々の生活見守りの中でその都度連携を取り介護支援専門員と話し合い、介護計画に有用な情報を提供している。	○	・センター方式を利用したのアセスメント ・気付きのメモ ・カンファレンスを実行している

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	・迅速な対応を心掛け、現状に即した新たな計画を作成している。	○	・様子観察の徹底 ・本人、家族、必要な関係者との信頼関係の構築の更なる向上
38	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・センター方式を使い、計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	・外泊、外出、家族が宿泊する等、行っている。 ・デイサービスの活用も行っている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	・小学校の授業の受け入れ、定期的なボランティアの来訪があり利用者となじみの関係ができています。 運営推進会議に警察署の参加を頂いている。	○	・社会との関わりをもっと取り入れていければ良い。
41	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	・介護支援専門員は他事業所の介護支援専門員と連携をとり、相談・アドバイスをもっている		
42	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	・訪問し活動の様子を伝えている	○	・今後、地域包括支援センターと協働し支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○ かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	・定期的な受診、担当の医師、看護師・栄養士・薬剤師と連携を取っている。相談や援助を受けている。		
44	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	・協力病院へ相談をしている	○	・認知症専門医との連携
45	○ 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	・デイサービスの看護職員に相談している。	○	・常に看護職を事業所にいる状態にする
46	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	・病院と連携をとりいつでも入院できる状態にしている。利用者入院時はスタッフ、管理者が本人の状態や様子を情報交換している。		
47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	・入居した時に家族からの意見を聞き、重度化した場合、主治医を含めてホーム・家族とカンファレンスを行っている。		
48	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	・かかりつけの病院、管理者、スタッフと話し合いを行っている。必要に応じて往診、訪問をしてくれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○ 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	・入居の前から家族にアセスメントシートを渡している。また、介護支援専門員と情報交換を行っている。退居時には次のケアマネジャーにも参加をしてもらい、家族を含め担当者会議を開催している。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	・配慮している。疑問を感じた時にはヒヤリハットとして捉え話し合っている。		
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	・認知度により差があるが活動の参加等本人の意思を聞き行っている。		
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・心がけているがすべて希望に沿って支援はできていない。	○	・更に努力をしたい
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	・定期的に訪問理容、美容により行っている。理容師・美容師となじみの関係ができている。		
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	・利用者さん個々の残存能力を活かし、魚をさばいて頂いたり野菜の皮むき、食器の後片付けを一緒に行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	・ 日常的ではないが好みに合わせて外食。ラーメン店、そば店、ファミリーレストラン等に行っている。 ・ 献立は希望を聞いている		
56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	・ 日中は布パンツを使用したり排泄パターンをアセスメントシートを活用して失禁をしないように努めている。		
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	・ 入浴前に利用者に聞いてから行っている。	○	・ 日勤帯での入浴になってしまいがち
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	・ 眠れない人にはホットミルクを提供したり居間で関わったり、安心して眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	・ 個人個人の長所や特技を把握し楽しめるようにしている。		
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・ 現在利用者に力がないため支援できていない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	・ 毎日は希望に沿って出掛けられていない。		
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段はいけな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支援 している。	・ 年間行事を作り、さくらんぼ狩り、納涼会、忘年会等ご家族も一緒に参加出来る場を 提供している。		
63	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援を している。	・ 自らは電話をかけられないが本人からの希望やかかってきた時は本人が出るよう にしている。		
64	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの 人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している。	・ いつでも訪問できるようにスタッフ、家族との信頼関係を築いている。食事時間は一 緒に食べて頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる。	・ 管理者から朝の申し送りやミーティング時に説明をしている。言葉の拘束に関しても 説明を受けている。		
66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解しており、 鍵をかけないケアに取り組んでいる。	・ 入口にチャイムを付けて「音」に敏感に反応をするなど努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○ 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	・スタッフは常に利用者の所在を把握できる場所にいる。		
68	○ 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	・危険なものは手の届くところに置いていない。		
69	○ 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	・転倒等、起きてしまった時はヒヤリハットを使用しスタッフ・管理者でどのようにしたら防止できるのか話し合っている。		
70	○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	・年に1回救命救急訓練を行っている。緊急時のマニュアルを作っている。	○	・年に1回ではなく定期的にホーム内でも行った方が良い。
71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	・管理者が町内の人に協力を得られるよう働きかけている。避難階段を設置した。避難訓練を年2回行っている。		
72	○ リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	・家族来訪時や電話で管理者やスタッフが連絡・報告している。毎月、ヒヤリハットを家族に送っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○ 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	・常に利用者を観察している。また申し送り等で急変があった時は報告している。		
74	○ 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・個人の記録ファイルに服用している薬の説明書を綴っており、薬の効用や副作用が書かれている。	○	・全職員が理解できていないと思われる
75	○ 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	・食べ物や水分の摂取時等、便秘に留意している。排便有無を確認し管理者へ報告している。管理者は主治医からの指導を受けている。		
76	○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	・毎食後声かけを行っている。不完全なところは介助により行っている。定期的に歯科医師・衛生士の口腔ケア指導を受けている。		
77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・それぞれに合った食事量や食事内容を栄養士に相談をしながら工夫している。水分補給にはゼリーなどでも対応。		・食事摂取量が確保できない人にはかかりつけ病院と相談している。
78	○ 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・手洗い、ブリーチ消毒の徹底。ペーパータオルの使用。手洗い指導を受けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○ 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	・毎日買物に行き、冷蔵庫内にはなるべく食材を残さないようにしている。	○	・肉や魚を切った後はすぐにブリーチ消毒をする。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	・中庭等には花を植えたり看板を立てたり親しみやすくしている。		
81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・居間や廊下には写真を掲示し壁にはその季節にあったレイアウトをしている。(節分やひな祭り等)		
82	○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・利用者がその時々を過ごしやすい場所がある。		
83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・居間に家族の写真を飾ったり本人の好きな俳優のポスターを貼ったりしている。		
84	○ 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	・窓の開閉、室温・湿度をこまめに確認している。外気を取り入れる換気扇の設置		・リフォーム時ロス内の設置。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○ 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの表示、窓の全開を防ぐ造りにするなど安全に配慮しながら対応している		
86	○ わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	・その人にあった声掛けをしている。		
87	○ 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやペランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	・椅子を設置したり花壇を置いたりして楽しめる空間作りをしている。		

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐ ほぼ全ての利用者 ☒ 利用者の2 / 3くらい ☐ 利用者の1 / 3くらい ☐ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☒ 毎日ある ☐ 数日に1回程度ある ☐ たまにある ☐ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☒ ほぼ全ての利用者 ☐ 利用者の2 / 3くらい ☐ 利用者の1 / 3くらい ☐ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	☒ ほぼ全ての利用者 ☐ 利用者の2 / 3くらい ☐ 利用者の1 / 3くらい ☐ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐ ほぼ全ての利用者 ☐ 利用者の2 / 3くらい ☐ 利用者の1 / 3くらい ☐ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☒ ほぼ全ての利用者 ☐ 利用者の2 / 3くらい ☐ 利用者の1 / 3くらい ☐ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐ ほぼ全ての利用者 ☒ 利用者の2 / 3くらい ☐ 利用者の1 / 3くらい ☐ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	☒ ほぼ全ての家族 ☐ 家族の2 / 3くらい ☐ 家族の1 / 3くらい ☐ ほとんどできていない

サービスの実施状況に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☒ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ☐ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	☒ 大いに増えている ☐ 少しずつ増えている ☐ あまり増えていない ☐ 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	☒ ほぼ全ての職員が ☐ 職員の2 / 3くらいが ☐ 職員の1 / 3くらいが ☐ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☒ ほぼ全ての利用者が ☐ 利用者の2 / 3くらいが ☐ 利用者の1 / 3くらいが ☐ ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☒ ほぼ全ての家族等が ☐ 家族等の2 / 3くらいが ☐ 家族等の1 / 3くらいが ☐ ほとんどいない
個々の持てる力を大切にして、役割のある暮らしを支援している。 職員も含めて困った時はお互い様」の精神で日々、その瞬間を安心・楽しい気持ちで過ごしてもらえるように努めている。 外部、地域との交流に努めている。		